

核廃絶訴え市内で巡礼



核廃絶や平和を祈り、市街地を歩く僧侶や市民
＝鹿児島市東千石町

市民、宗教者「ピースウオーク」

核兵器の廃絶や世界平和を祈りながら教会や寺院を巡礼する、宗教者と市民のピースウオークが1日、鹿児島市の天文館周辺であつた。広島、長崎に加え、原子爆弾の実験が行われた米国ニューメキシコ州でも同時開催し、曹洞宗直指庵の鎌田厚志住職(75)ら3人が

渡米し参加した。

鹿児島市でのピースウオークは、東日本大震災後にできた宗教者懇話会で知己を得た僧侶や牧師らが、毎月第1日曜に行い、ザビエル教会、西本願寺別院、照国神社を巡っている。

1日は20人が参加し、「STOP WAR」「核戦争絶対反対」と書かれたプラカードやパレスチナの旗を掲げ、天台宗南泉院の宮下亮善住職(78)とカトリック始良教会の末吉卓也司祭(60)を先頭に約1時間練り歩いた。照国神社横の探勝園にある、鹿児島県原爆犠牲者慰霊平和祈念碑にも祈りをささげた。

宮下住職は「とにかく祈って回ろうと始めた。祈ることは人間共通の思い。月に1度だけだが大事にしたい」。末吉司祭は「米国での巡礼で、一人でも多くの人に平和のメッセージが広がることを願う」と話した。

(兵頭昌岳)

鹿児島巡礼

(南日本新聞より)

